「次世代目録所在情報サービス の在り方について(中間報告)」 に対する意見

筑波大学附属図書館 高橋 努

平成20年6月6日(金)
NIIオープンハウス2008
ワークショップ「次世代の目録所在情報サービスを考える」

国大図協要望書のあらまし

デジタル情報環境下における利用者サービス機能の強化を第一の目標とした、今後の大学図書館システムの方向性

電子リソースの アクセシビリティを高める

孤島的システムから ブリッジ型システム・ユビキタスな図書館へ

利用者が一次情報に到達できる サービスを

書誌·所蔵データ作成の ワークフロー再構築

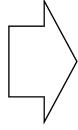
ASP/SaaSモデルの 図書館システム 大学図書館がサービス機能の強化を 図っていくために、 NIIに担ってほしい役割

電子リソース管理機能の提供

総合目録DBの データ開放と外部サービスとの連携

ILLの機能改善と直接サービス化

総合目録DBのあり方の見直し



「中間報告」に対する意見(1)

- データ構造、データ作成基準の見直し
 - →国際標準の動向と同時に、 業務効率化の観点も
- NACSIS-CAT外にある書誌データの活用
 - →書誌入力のコストを誰が負担するのか
 - →目録の品質保持と省力化・効率化

「中間報告」に対する意見(2)

APIの公開と課題

- 目録所在情報は公共財として基本的には公開すべき 利用者の利便性、目録所在情報の視認性の向上
- 参加館の合意が前提
- 参加館側でも議論を
- 共同分担目録の理念そのものが瓦解?
 - → 共同分担方式の最適化のなかで考え、 API公開は、切り離して進めては
- 検索エンジンへのデータ開放について